

平戸市の観光の現状

平成20年観光統計の概要をお知らせします

平成20年の観光客数は、経済の低迷により、厳しい結果となっております。平戸の主要産業である観光を盛上げていくためには、地域一体となった取組が求められています。



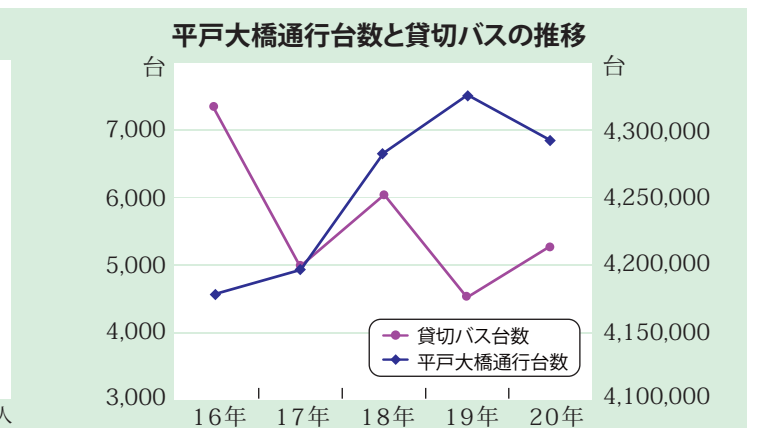
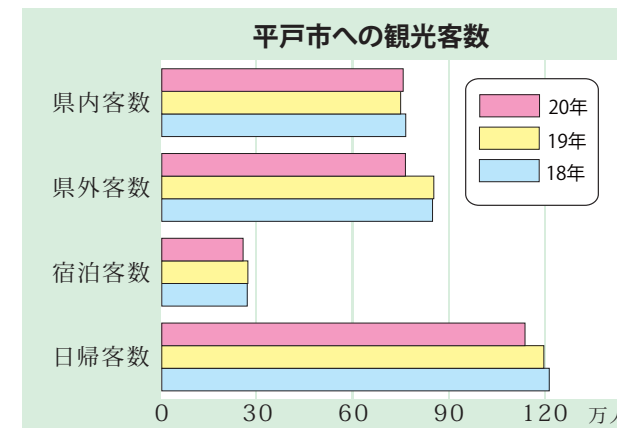
▲観光客などにぎわったエビカキまつり

■観光統計の概要

| | | | |
|-------|-----------|--------|-------|
| 観光客数 | 152万2千人 | (対前年比) | 95.0% |
| 宿泊客数 | 25万5千人 | (対前年比) | 93.7% |
| 日帰り客数 | 113万9千人 | (対前年比) | 95.4% |
| 観光消費額 | 94億2千9百万円 | (対前年比) | 89.4% |

■観光客数内訳

| | | | |
|------|---------|--------|-------|
| 平戸地区 | 113万8千人 | (対前年比) | 94.6% |
| 生月地区 | 24万9千人 | (対前年比) | 99.8% |
| 田平地区 | 12万1千人 | (対前年比) | 89.2% |
| 大島地区 | 1万4千人 | (対前年比) | 97.6% |



観光客数

平成20年の観光客数は、平戸市全体で152万2千人、平成19年より約8万1千人の減少で5.0%の減となりました。内訳として、日帰り観光客が5万5千人の減(4.6%)、宿泊客が1万7千人の減(6.3%)となっております。

海外からの観光客は、この数年増加傾向にありましたが、昨年は約1万2千人(対前年比△2.6%)で322人の減少に転じました。

主な要因

平成20年の平戸市への観光客は、景気の後退や燃油高騰により旅行を控えた影響を大きく受けて減少しています。このことは、全国的に観光客が減少している要因でもあります。特に観光シーズンである夏以降に、この影響を受けたことが結果に表れています。

また、旅行の形態が個人やグループ型観光に移行していることから、団体型観光が減少している状況となっております。

このようなことが、平戸市への観光客が減少した主な要因です。その他の要因としては、団体ツアー客数が低迷している中、個人型旅行者にターゲットを絞ったPR活動などが十分な効果を見出せなかったことが考えられます。

直面する課題

平戸市は、今年の平戸オランダの通商400周年など、歴史・自然・文化・食といった魅力ある資源に恵まれています。しかし、その魅力を十分に活かしていません。全国各地で観光PRを行っている中、交通環境が十分でないところに来てもらうためには、ここでしか味わえない魅力を感じてもらうことが重要です。

近年、個人やグループで自然や地域の文化に触れたり、地域の人々と触れ合ったりする「体験型」や「交流型」の旅行が、高い満足度を得ています。

平戸市でも、地域の人と触れ合う、

ボランティアガイドによる観光や体験型観光に人気があります。修学旅行についても、体験のメニューの増加と、民泊の受け入れ態勢が整備されたことにより増えてきています。

団体客の低迷が続く中で、観光客から受け入れられるためには、この地域ならではの地域密着型の旅行商品をさらに充実させ、「また平戸に来たい」と感じてもらうことが、平戸市の観光を活性化させていくための課題だと考えられます。

厳しい状況に置かれている今こそ、行政や観光団体と、市民のみならず、平戸市の主要産業である観光を輝かせていく必要があります。

Interview



お客様からまた平戸に来たいと言ってもらえることが一番うれしい

平戸市漁協
塩谷あい子さん (57)
Shioya Aiko
◎獅子町

平戸市漁協では、6年前から平戸産の魚のイメージアップやPRのために、新鮮な魚をその場でさばいて食べる事が出来る直売所「旬鮮館」をオープンし、観光客などから好評を得ています。

お客様から言われてうれしいのは、「おいしかった。平戸に来てよかった。」「美味しかったので、今日は友達を連れてきました。」などの言葉です。しかしその中には、「前に来たときは、平戸は何もないという印象だった。」という声もありました。平戸の魅力を分かってもらうためには、新鮮な魚を味わってもらったり、まちを散策してもらったりすることが必要。そのことにより、また来たいと思う観光客が増えるのではないのでしょうか。

Pick up

【平戸市漁協が取り組むバスツアー事業】

平戸市漁協では、1年前から新たな取り組みとして、福岡市からのバスツアーを行っています。このツアーは、平戸の魚の価値を高めて、消費者から支持されるようになるための取り組みとして実施しています。毎回20名程度のお客様の参加があり、素朴さと漁師ならではの豪快さが評判を得ています。今後も、春と秋に定期的実施して、多くのお客様に定着していくことを目指しています。



▲平戸市漁協でウニを堪能するバスツアー参加者



▲塩炊き屋で塩作り見学するバスツアー参加者

Interview



市民ガイドとしてふるさとの活性化のために参加して欲しい

平戸ウェルカムガイド
松永 勉さん (70)
Matsunaga Tsutomu
◎大久保町

私たちウェルカムガイドは、市内の観光のガイドをボランティアで行っている団体で、昨年は1万人を超える観光客を受け入れています。

私は、10年前に平戸にUターンで戻ってきて8年前からガイドを行っています。平戸を訪れるお客さんは、食、歴史や自然を期待してきますが、全員が満足して帰ってはいません。期待はずれだったという意見もあります。平戸の魅力を分かってもらい、また来てもらうためには、市民ガイドがまちを案内することは非常に重要です。しかし、現在のガイドの数は12名で、ほとんどが高齢者です。ふるさと活性化のために、公務員OBや主婦の人たちに、どんどん参加して欲しいです。